

『沖縄県産酒類振興・消費拡大懇話会』について

1 趣旨

沖縄の生活、食文化に根ざした県産酒類について、各界で活躍の有識者による懇話会(『沖縄県産酒類振興・消費拡大懇話会』)を開催し、「生活や食文化ごと売り込む」という視点から、今後の振興策や消費拡大策を議論する。

2 形式

内閣府谷本龍哉政務官主催の勉強会

3 対象酒類

沖縄県産の泡盛・ビール・地ビール・ラム酒 その他

4 メンバー(50音順、敬称略)

佐々木信行(セコム(株)専務取締役)

残間里江子(プロデューサー)

尚 弘子(琉球大学名誉教授)

田崎真也(ソムリエ('95 世界最優秀ソムリエコンクール優勝))

富永麻子(泡盛ルポライター、'99 泡盛の女王)

比嘉京子(琉球放送報道局報道部部長)

比嘉良雄(興南学園理事長、元・オリオンビール(株)副社長)

三上重明(独立行政法人酒類総合研究所醸造技術基盤研究部門長)

百瀬恵夫(明治大学名誉教授)

(注)業界代表と沖縄県庁は、オブザーバー参加

5 開催実績

第一回(平成19年1月10日)那覇

第二回(同 2月14日)東京

第三回(同 3月7日)那覇

『沖縄のお酒の発展に向けた11の提案』の概要

1. 問題意識

沖縄のお酒それぞれには、沖縄独自の歴史や気候との強い結びつきがある。しかし、他県の酒類との競争にさらされるなど厳しい状況の下で、その魅力が顕在化するには至っていない。そこで、この魅力を顕在化させるために、新たな振興策を考える必要がある。

2. 振興の基本的な考え方

- 沖縄のお酒のもつ個性や伝統を大切にした振興を図る
- 県民一人ひとりの方に沖縄のお酒を愛し、飲んでいただくことを意識する
- 食文化との深い関係を念頭に置く

3. 提案（振興策）の内容

(1) 沖縄のお酒を知ってもらう

- ・ 泡盛などの体系を整理してはどうか
- ・ 泡盛などのラベルを整理してはどうか
- ・ コアブランドを確立してはどうか
- ・ PR活動を強化してはどうか
- ・ 観光とリンクした取組みをしてはどうか
- ・ 県外向けの流通対策をしてはどうか

(2) 沖縄のお酒を味わってもらう

- ・ 戦略的な製品開発をしてはどうか
- ・ 古酒の積極的な展開をしてはどうか
- ・ 一般消費の拡大に向けた取組みをしてはどうか

(3) 沖縄への親しみを深めてもらう

- ・ 沖縄のお酒が生まれ、育んできた過程を紹介してはどうか
- ・ 沖縄の食文化の振興をしてはどうか